

旧約聖書を読んで感じる事(20) レビ記の素晴らしい二つのこと

「レビ記」は「そして神は呼ばれた」と翻訳するそうです。神がモーセに呼びかけた言葉、十戒に関連して、祭司や共同体の生活の勤めに関する規定、細則が記されています。簡単にまとめてみました。

1. 捧げもの (1) 和解(神への感謝・願い事・随意)のため
(2) 贖罪(故意ではなく、誤って犯した罪)のため
(3) 賠償(故意に犯した罪)のため
2. 祭司の勤め
3. 動物の浄・不浄 出産、病気、衛生、性、生理に関する浄・不浄
4. 祝祭日 (1) 安息日 (2) 過越・除酵祭 (3) 新穀奉納祭(五旬祭) (4) 仮庵祭 (5) 贖罪日
5. 死刑 以上。

私として非常に悲しく、残念なことは、イスラエルの男性は女性の生理や出産に関する「血」に怯えていたのでしょうか、「汚れ」と捉えています。その期間中、女性は汚れているし、女性に触れた人も汚れるし、女性の使用した品物に触れても汚れるとしています。科学的知識がなく、また女性は謎めいて見えたのでしょう。女性の価値を男性の半分と見なしました。女性蔑視の考えから抜けていません。

けれども、素晴らしい戒めが記されています。

まず第一は、レビ記19章「聖なる者となれ」という勤めの部分です。



良いサマリア人 レンブラント

自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ19:18)

と記しています。この言葉は、イエス様が最も大切な掟として

『隣人を自分のように愛しなさい』(マタイ22:39)、

また、パウロが、律法はそのほかどんな掟があっても、

『隣人を自分のように愛しなさい』(ローマ13:9)

という言葉に要約されると言っているように、最も重要な戒めです。

この言葉は旧約聖書ではレビ記にのみ記されているのです。

19章は「父母を敬え」から始まり、貧しい人、寄留者への配慮が記され、同胞に対して品位と公正を持って、ともに生きるように勧めています。

第二に素晴らしい箇所は、25章「安息の年とヨベルの年」という箇所です。

七年目には全き安息を土地に与えねばならない。これは主のための安息である。(レビ25:4)

と、大地への思いやりを持つようにとの戒めを与えています。さらに、

あなたたちは国中に角笛を吹き鳴らして、この五十年目の年を聖別し、全住民に解放の宣言をする。それが、ヨベルの年である。あなたたちはおのおのその先祖伝来の所有地に帰り、家族のもとに帰る。(レビ25:9b-10)



雄羊の角笛

と、すべての人的、物的な義務や束縛から無条件に解放される時があることも謳っているのです。これはあまりにも理想主義的で実行されたことはないようです。けれどもレビ記では「土地は神のものであって、人間はその土地に寄留し、滞在する者にすぎない」と言って、神の権威に服しているのです。

最後に、罪を犯せば七倍の災いを加えると強調していますが、神を欺き、反抗した罪を告白するならば、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こすと、赦しの言葉も付け加えているのです。